

「円文化財少年団のふるさと文化（八月踊り）伝承活動の取組」

1 学校名

龍郷町立円小学校

2 学年・人数

1学年（3人）3学年（2人）4学年（2人）5学年（1人）6学年（1人）

※ 小学生9人 中学生5人 合計14人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

毎月の練習 毎月第3金曜日（午後8時から午後9時30分）＜円公民館＞
発表リハーサル 平成28年1月29日（午後8時～）＜円小体育館＞

(2) 発表の日時・場所

平成27年10月4日（日）午後2時45分～午後3時
＜円小大運動会＞ 円小運動場
平成28年1月31日（日）午前10時30分から午前11時00分
＜円小学習発表会＞ 円小学校体育館

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称 「八月踊り」（はちがつおどり）

(2) 由来

奄美大島は、収穫期の早い南国の農歴に合わせ、旧暦の八月を「新年」ととらえる暦があり、「アラセツ」「シバサシ」「ドンガ」など、1か月の間に色々な行事がある。その各行事などで、豊かな収穫に恵まれますようにと、神に感謝を捧げ、祝福し合うために踊られるものである。

平成元年、円小学校が大島地区郷土教育研究協力校となり、授業の中に郷土芸能が取り入れられる。平成4年に、それまでの練習の成果を大島地区文化祭に出場し披露する。これがきっかけとなり、平成5年に円子ども会が母集団となり、円文化財少年団が結成され、現在に至る。この間、平成9年に県子ども会育成連絡協議会表彰等、その取組が大きく評価され、その後も様々な表彰を受賞している。

(3) 構成等

中学生女子2人の太鼓に合わせて、小・中学生14人が、いくつかある「八月踊り」の中から、3～4つの「八月踊り」を、男女が元気よく歌を掛け合いながら円になって「八月踊り」を踊る。その後、子どもたちの三味線・太鼓・歌に合わせて、小・中学生と参加者が「六調」を踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

教職員を子ども会担当者として3人割り当て、毎月の練習日に参加し、指導補助に当たっている。学校では、「月の歌」に「八月踊り」の歌を取り入れて歌ったり、掃除時間の放送に「八月踊り」の歌を流したり、少しでも歌を覚えられるよう、また、八月踊りを身近に感じられるようにしている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

「八月踊り」の歌については、CDで音源を保存している。「八月踊り」の踊りについては、映像としての保存を行う予定である。また、子どもの減少に伴い、文化財少年団としての活動も難しくなることが予想されるので、集落区長をはじめ、関係機関・団体と連携を図りながら、集落活動として「八月踊り」の伝承活動に取り組んでいく方向性について検討していく予定である。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【参加児童感想】

- 私は、この伝承活動を通して、円の文化を受け継ぐ大切さや地域の方々と交流することの意義について考えを深めることができました。
- 私は、円の文化を知るいい体験になりました。また、伝承活動や八月踊りを踊る行事等に参加して、集落のお爺ちゃんやお婆ちゃんたちとも交流を深めることができよかったです。
- まだ三味線や太鼓などは、弾いたり打ったりできないけれど、中学生のお兄ちゃん・お姉さんに教えてもらいながら、練習をがんばっていきたいです。

【保護者感想】

- 学習発表会の「八月踊り」発表は、子どもたちが元気に力強く、男女で歌を掛け合いながら「八月踊り」を踊る姿に、いつも大きな感動を覚えている。ふるさと文化をみんなで継承し、大切にしていくことの意義をみんなで確認し合う、大切な機会になっているように感じる。

【指導者感想】

- 小学生、中学生の頃から「八月踊り」を通して、郷土芸能・文化を学び触れることで、自分の故郷の良さを実感するとともに、郷土愛を育むことができていると感じる。学業や、仕事で奄美を離れてもいても「八月踊り」の季節になると、郷土を思い出し、島のことを懐かしんでいるとの話を聞くと、私たちのやりがいにも繋がっている。

【教職員感想】

- ふるさと文化「八月踊り」の伝承活動は、ふるさとに愛着と誇りをもった子どもの育成として、大変意義深い大切な活動であると思う。